



多摩美術大学校友会会報

alT

The alumni association of
Tama Art University

No. 1 1996 Spring

発行日：1996年3月10日

編集発行：多摩美術大学校友会事務局

〒158東京都世田谷区上野毛3-15-34 多摩美術大学内

tel.03-3702-1168(直通)

tel.03-3702-1141(大学代表)

fax.03-3702-2235

会報誌名「alT」(アルティ)は英文表記のThe alumni association of Tama Art Universityを略して、創作した名称です。

- 校友会の出発によせて——藤谷宣人/後藤狷士/阿久津圭子
- 会長挨拶——勝呂 忠
- 第1回総会議事録/決議事項/会則
- 理事・役員・地方支部・幹事紹介

藤谷宣人 多摩美術大学理事長

昨1995年11月、多摩美術大学創立60周年を契機として待望久しかった全卒業生を統合した校友会の発足はまことに時宜を得た快挙であった。心から祝意を表したい。今後、この校友会を守り育て発展させなければならない。大学も積極的に支援をいたしたい。卒業生の活躍は何ものにもかえ難い誇りであり、大学の発展も卒業生の活躍と支援なくしてはありえないのである。大学と校友会が車の両輪として連携し助け合っ

阿久津圭子 女子美術大学同窓会会長

多摩美術大学校友会の設立にあたり、大変僭越ではありますが、武蔵野美術大学校友会、東京造形大学校友会、日本大学芸術学部校友会、女子美術大学同窓会を代表しましてご祝辞を申し上げます。

私たちは学んだ母校も違い、学んだコースも異なるかも知れませんが広い意味で美術に関わる文化という場を共有している者達です。21世紀を目前にして情報化が進み、知の創造と人間との距離がますます開いていくといわれている時、コミ

後藤狷士 多摩美術大学学長

大学の60周年(1995年)に時を合わせて校友会が大々的に発足した。同窓の諸氏の献身的な熱意と母校愛の結晶がもたらしたものである。大学の歴史や伝統や学風は、すべて卒業生諸氏の貴重な業績の基盤に築かれている。大学と校友会は不可分の関係にある。ここに打たれた布石の一着から、新世紀への限りない可能性の場が展けるであろうことが期待される。校友会の今後の堅実な発展を念じ、同時に大学への一層の御支援と御鞭撻をお願いしたい。

コミュニケーションの在り方が問われています。人の心、人の目、人の手による開発と文化的でヒューマンな発想からの捕らえ直しが求められているこのような状況の中で、私としては多摩美術大学校友会の設立を機に五美大校友会、同窓会が交流と親睦を高めながら新しい時代に相応しい在り方を共に求めて行きたいと願っています。最後に、多摩美術大学校友会のご活躍とご発展をお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。(校友会結成式典のご挨拶より抜粋)

多摩美術大学校友会創設を迎えて

校友会の創設は、卒業生一同の長い間の要望であった。この度、関係者の努力が実り、設立総会の議を経て正式に発足した。積年の願いがここに成就したことを、まず心から慶びたい。

美校生として第一歩を踏みだした我々の“青春の軌跡”は、母校が昭和10年に多摩帝国美術学校として発足したことに始まる。まさに“光陰矢の如し”の譬えのように、種々の思い出を、歴史といえるほどに過去へと押し流し、今日、創立60周年という極めて大きな節目を迎えるに至った。

ここまでの道のりは、我々卒業生に、また大学にとっても数々の難関を乗り越えた厳しい歳月の積み重ねで、それは長短さまざまな感慨を抱かせるものがある。いずれにしても、この60年の歴史を短絡に割り切ることはできないであろう。

苦難といえば、いまでは想像すらできない重大な危機として、昭和20年第二次大戦終結の母校の姿を思い出さずにはいられない。

上野毛の校舎は空襲の直撃弾を受け、主要な建物は跡形もなく消失し、キャンパスはまさに焼け野原であった。唯一染織科の校舎が南西部の片隅に、すすけて真っ黒の醜い姿をさらしているのみであった。その時点では、母校再建の目途はまったく立たず、廃校をも考えた、と後に関係者は語っている。

私事になるが、私は、そのような多摩美がいよいよ再建と決まった昭和21年に入学した。校舎のまったく無い状態で、その姿に驚き、かつ失望しながらの入学であったが、当時溝ノ口の日本光学の木造三階建ての工場跡を借り受けて授業が始まっており、いくらかほっとしたことを思い出す。

その時点で、誰が今日のような多摩美の発展を予想してきたであろう。それこそ、我々画学生たちの現実には、戦後社会全体がそうであったとはいえ、先ずは食糧の確保が第一であり、芸術はその次の問題であった。勿論、キャンパスも、絵の具もデッサン紙も、ポスターカラーなど全てが入手困難の厳しい現実を前にして、学生たちは新聞紙などに石膏デッサンを描いていた。とはいえ、芸術への燃えるような想いは、空腹を抱えながらも意気軒昂というのか、あたかもその空腹をみたしてでもくれるかのように、おさな芸術論を闘わず毎日であった。

今日、その上野毛のキャンパスには、数々の建物立ち並び、まさに隔世の感がある。また緑の自然に恵まれた八王子キャンパスには各種の施設建物が偉容を示している。このような大学の発展はいうまでもなく歴代の学長・理事長を始め関係者の並々ならぬ努力の成果であり、かつての焼け跡の状態を思えば、まさに、奇蹟としか言い得ないものがある。

こうした発展は美術家にもとめられた社会的要請に応えるべく、教職員を始めとする関係者の努力の積み重ねがあって初めて達成されたものである。

もちろん、大学は施設の充足で事足りる訳でないことは、今さら申すまでもない。美術大学における教学の根本はあくまで、美術の美術たる所以を極めることにある。それは自由の環境にあって、高い水準の研究に没頭する学生の傍に立ち、幾らかの知恵を貸す教師の姿勢があって、初めて達成されるのではないだろうか。と僭越ながら私は考



校友会会長

勝呂 忠

昭和25年多摩造形芸術専門学校絵画科卒業
京都産業大学教授
成安造形大学講師
明治美術学会会員
駿河台文学会会員

えている。

校友会としては、大学の教育理念・理想と歩みを共にして、今後の可能であろうと思える種々の事業の成就に向かって、全ての卒業生の協力に期待し、あわせて、美術教育の総合的殿堂としての多摩美術大学がゆるぎない地歩を確立することを実感したいと願っている。今日なお、大学は開かれた教学の場として、社会・地域の美術文化の中心であり続けなければならないし、そうした活動が今後さらに望まれるものと考えられる。

校友会を単なる交流の場、親睦の会に止めることはできない。より良き後輩の巣立つことを期待し、互いに導き合い、援け合い、卒業生がそれぞれの職域において存分の実力が発揮できる後ろ楯の役割を担うものでありたい。

今後の事業計画としては、早急に実現できるものと、将来に任せるべき問題とがある。まずは次のような事項を挙げることができる。

一、名簿作成。

一、地方支部の設立とその活動への支援。

一、美術振興セミナー企画開催。

一、造形美術の分野別技法指導書の刊行。

一、小・中・高校美術教育現況への提言。

一、今日的連鎖展の企画実行。

一、世界へ向けてのコンピュータネットワーク事業。等々。これらはとりあえず徐々に達成したい目標である。

最後になったが、教学の自由の精神を守り、不偏の秩序を創りあげるべく、教職員の皆さんと卒業生一同が結束して多摩美術大学校友会の今後を支えて戴くことをお願いしたい。

第1回総会議事録

1995年11月3日(金) 午後3:00~4:50

京王プラザホテル・エミネンスホール

■開会の挨拶 司会者 中野嘉之氏(S43日本画)

■議長選出 稲垣行一郎氏(S34回画)が選出された。

■書記選出 田中康夫氏(S46油画)が選出された。

■議長就任の挨拶 稲垣行一郎準備人

■議長より総会成立条件の報告

・議決権資格者983名の内、出席者160名、委任状提出者312名で合計472名となり、総会が成立したことをご報告します。

・議事に対する賛否は拍手によることとします。

■経過報告(事務局)渡辺達正氏(S45油画)より

・これまで前半の経過報告については多摩美術大学校友会設立案内に記載されているので簡単にご報告いたします。

・平成5年12月に創立60周年に向けて卒業生の会を作ろうと、学内で話し合いが持たれました。翌、平成6年1月に学内の多摩美卒の教職員で準備人会を開催し、9月まで20回以上の会議を重ねました。平成6年9月3日、学内から学外の卒業生に依頼し、合わせて27名の準備人で第1回校友会設立準備人会を開催し会則(案)を検討、10月の会議で承認しています。それと同時に、法人の60周年記念行事の一つとして名簿の発行を行う際、調査ハガキに便乗して校友会設立の賛同をお願いする欄を設けて賛同者を募りました。結果、約3000名の卒業生から賛同するという署名をいただき、これをもって平成6年11月に学内に校友会設立宣言書を掲示し、賛同者のお名前を挙げさせて頂きました。その後、学内で「多摩美術大学校友会設立宣言書」「多摩美術大学校友会会則(案)」「多摩美術大学校友会設立案内」を作成するチームをつくり、3か月近い時間をかけて完成し、平成7年2月1日に卒業生に発送しました。ただし、法人の卒業生名簿は50周年で作成したもので、その時点で住所が判明した卒業生は4000名でした。あわせて校友会設立のため設立準備金は校友会設立後、校友会終身会費とする内容で設立準備金にご協力いただくお願いをしました。さらに7月24日、あらたに住所が判明した卒業生約5000名に向けて発送しました。その間、研究室の情報を中心に多くの方にご協力いただき少しずつ発送をしてきたので、発送が重なり、準備金振込用紙が何度も送られてきた等、お叱りの言葉もありましたが、それ以上に卒業生が校友会を作ろうとする熱意を伝えるために失礼を承知で送らせていただいた次第でどうかご理解ください。ここまで来るには、学長、理事長、大学教職員の多大なご協力なくしては考えられません。会報、リストの作成等

も若い人の協力があってこそです。資金面では印刷費、郵送費、その他、会議費、アルバイト代、懇親会費等を法人から援助していただき、法人としてもこの60周年を機に校友会の設立を強く望んでいるのがひしひしと伝わりました。お陰様で卒業生の皆様からの準備金はほとんど手付かずの状態です。銀行、郵便局へ預金しています。後程、詳しいことは会計の報告でさせていただきます。簡単ではありますが、以上をもって経過報告とさせていただきます。

■議長が議事進行を宣言

- ・発言者は、卒業年度、科、氏名をお願いします。
- ・議事録作成のため、発言は大きな声をお願いします。

【議案第1号】 会則(案)について

- ・わたなべひろこ準備人(S32回T)より説明。
- ・会則担当の海老塚耕一準備人(S51建築)、渡辺達正氏の紹介。
- ・会則(案)第1章から第2章の読み上げ。
- ・会則(案)第3章の読み上げ。
- ・会則(案)第4章の読み上げ。

○議長が上記の章ごとに質問を受付けたが、質問はなく拍手多数によって承認された。

・会則(案)第5章の読み上げ。

<質疑>(S33立体)柳谷氏より、第29条2の基本準備金の積立てについて、どういう形でどのくらい積立てるのかという質問があった。

(渡辺)現在は集めた準備金の3分の2以上を基本準備金に当てている。今回は予算の見当がつきにくかったので「別に定める」と記載した。今後、基本準備金として不足であるようならばご指摘いただきたい。

○議長が採決し、拍手多数によって承認された。

・会則(案)第6章、付則、事業細則の読み上げ。

<質疑>(S32油画)奈良原氏より名簿の序列について質問があった。

(渡辺)この件は議案第4号、平成7年度事業計画の校友会名簿発行企画書の作成という項目で提案していただき、議事録に残して検討することとした。

○議長が採決し、拍手多数によって議案第1号は承認された。

【議案第2号】 役員選出について

○会則(案)の承認に基づき、司会者より準備人を役員とすることを提案され、拍手多数によって承認され

た。

○幹事(案)、支部長についても同様に拍手多数によって承認された。

○議長より、議案第2号の承認に基づき「以後、準備人は理事として校友会の運営にあたる」との報告がなされた。

【議案第3号】 会計の細則(案)について

・岡崎紀理事(S35油画)より説明。

・会計の細則(案)の読み上げ。

<質疑>(S33立体)柳谷氏より、会計の細則についてはかなり専門的内容であるがどのようにして出来上がったのか裏付けの報告をして欲しいとの質問があった。

(岡崎)膨大な資料をもとに検討を重ね、法人の経理部、公認会計士の助言を得たものである。

○議長が採決し、拍手多数によって議案第3号が承認された。

【議案第4号】 平成7年度事業計画について

・真鍋博理事(S29油画)より説明。

<質疑>(S32油画)奈良原氏より、これまでの名簿の序列は50音順にした方が良いとの提案があった。

(真鍋)これまでの名簿は法人が発行したものであり、校友会としては関係がないものである。今後、校友会としては皆様の提案を反映し企画書を作成したい。

○議長が採決し、拍手多数によって議案第4号が承認された。

【議案第5号】 平成7年度予算(案)について

・金岡岩雄理事(S33油画)より説明。

○議長が採決し、拍手多数によって議案第5号が承認された。

■理事の役割分担が発表された。

■会長挨拶 勝呂忠会長(S25油画)

■後藤狷士学長のご挨拶

■藤谷宣人事理長のご挨拶

■議長が全議案の成立を報告し、第1回総会の終了宣言をした。

■司会者により閉会の挨拶

多摩美術大学校友会会則

第1章 総則

- 名称 【第1条】 本会は、多摩美術大学校友会と称する。
- 目的 【第2条】 本会は、会員相互の親睦をはかり、多摩美術大学と芸術文化の発展に寄与することを目的とする。
- 事業 【第3条】 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
 1. 会員名簿の発行
 2. 講演会、研究会及び展覧会等の開催
 3. その他本会の目的を達するために必要とする事業【第4条】 本会の事業年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終了する。
- 運営費 【第5条】 本会の運営は会員の終身会費、寄付金、その他の経費によって行う。
- 会費 【第6条】 正会員は、本会の事業に要する経費として、別に定める終身会費を本会に納入しなければならない。
- 事務局 【第7条】 本会の事務局は、多摩美術大学内に置く。

第2章 会員

- 会員 【第8条】 本会は、次の会員をもって構成する。
 1. 正会員 多摩帝国美術学校、多摩造形芸術専門学校、多摩美術短期大学、多摩美術大学、多摩美術大学大学院、多摩芸術学園を修了、卒業した者。または、一時在籍したもので理事会での承認を得た者。
 2. 準会員 多摩美術大学に在籍する者
 3. 名誉会員 多摩美術大学理事長、多摩美術大学学長
 4. 特別会員 多摩美術大学教職員、および本学関係者で理事会が決定した者。(ただし、名誉会員、卒業生教職員は除く)【第9条】 本会会員であって、本会の名誉を甚だしく毀損した者は、総会の決議をもってこれを除名することができる。
- 【第10条】 会員は連絡先の住所を本会に報告する義務がある。

第3章 役員

- 役員 【第11条】 本会には次の役員を置く。
 1. 名誉会長 1名
 2. 会長 1名
 3. 副会長 2名
 4. 理事 8～27名
 5. 幹事 基数
 6. 監査 2名
 7. 支部長 定数
 8. 顧問 若干名
- 役員の出選 【第12条】 本会の役員は、次の方法で選出する。
 1. 本会名誉会長は多摩美術大学学長とする。
 2. 会長は、理事の中から互選し、総会を経て決定する。
 3. 副会長は、理事の中から互選し、総会を経て決定する。

4. 理事は、幹事の中から選出し、総会を経て決定する。多摩美術大学の専任教職員たる理事の数は、理事定数の3分の1を超えてはならない。
5. 幹事は、各卒業年度に選出されたもの、支部長、卒業生たる現専任教職員全員、及び現職員で、理事会の議を経て会長が委嘱するもの。
6. 監査は、理事の中から互選し、総会を経て決定する。
7. 支部長は、支部会員の推薦により会長が委嘱する。
8. 顧問は、多摩美術大学教職員及び関係者の中から、理事会の議を経て会長が委嘱する。

●役員の仕事 【第13条】 本会の各役員の仕事は次のように定める。

1. 会長は、本会を代表し、会務を総理し、会議の議長となる。
2. 副会長は、会長を補佐し、会長が事故あるときは、その職務を代行する。
3. 理事は、会務を処理する。
4. 幹事は、会員の連繫をはかり、必要に応じ本会の運営に参与する。
5. 監査は、会計及び事業を監査する。
6. 支部長は、支部を代表し、支部の会務を処理し、本部との連繫をはかる。
7. 会務執行のため若干の委員をおくことができる。委員は理事会を補佐し、実務を担当する。委員は会長が委託する。

●役員の任期 【第14条】 理事の任期は3カ年とし、ただし、再選を妨げない。(欠員によって補充された理事の任期は前任期間とする)

第4章 会議

●会議の種類 【第15条】 本会には次の会議を置く。

1. 総会
2. 理事会
3. 幹事会

●総会

【第16条】 本会の総会は、正会員で組織する。

【第17条】 総会は定期総会及び臨時総会とする。

【第18条】 定期総会は、毎年1回開催する。臨時総会は、必要に応じて会長が招集することができる。ただし、理事および幹事の3分の1以上から請求のあった場合は、会長はすみやかに臨時総会を招集しなければならない。

●招集手続

【第19条】 総会を招集するには、少なくとも会議を開く日の2週間前までに会議の日時、場所及び目的を正会員に通知しなければならない。

【第20条】 定期総会においては、次の事項についての決議を要する。

1. 予算・決算の承認
2. 会長・副会長・理事の決定
3. 会則の変更
4. 事業報告・計画の承認
5. その他の重要事項

- 【第21条】 1. 総会は会費を納めた正会員の20分の1以上の出席で成立する。
2. 会費を納めた正会員は議決権を有する。
3. 総会の決議は、出席議決権総数の過半数による可否とし、同数の時は議長がこれを決めるものとする。ただし、会則の変更には、総会出席議決権総数の3分の2以上の同意がなくてはならない。
4. 書面によって議決権を行使するものは出席正会員とみなす。

【第22条】 総会の議事については、議事録を作成しなければならない。

【第23条】 理事会は理事をもって構成する。

- 【第24条】 1. 理事会は会長が必要と認めたとき招集し、理事の過半数の出席をもって成立する。または理事の3分の1以上から請求があった時はすみやかにこれを開催しなければならない。
2. 委任状を提出した理事は出席したものとす。

【第25条】 理事会は次の事項を審議し、執行する。

1. 総会に提出する議案
2. 会員の承認
3. 総会によって委任された事項
4. その他、会務の執行に必要な事項

【第26条】 幹事会は、会長が必要と認めた時、開催することとする。ただし、理事及び幹事の3分の1以上の請求があった場合は、会長がすみやかに招集しなければならない。

第5章 会計

●会計年度 【第27条】 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

●経費 【第28条】 本会運営のための経費は、終身会費、基本金利子、寄付金およびその他の収入をもってあてる。本会の収入は次の通りにする。

1. 終身会費
2. 基本金利子
3. 寄付金
4. その他収益金

●会費徴収 【第29条】 1. 本会の終身会費は、30,000円とする。

2. 会費の納入方法、基本準備金の積立については、別に定める。

3. 正会員は納付した終身会費について、その返還請求をすることができない。

【第30条】 会費の変更は、理事会の決議により総会の承認を必要とする。

●予算 【第31条】 1. 会長は、毎会計年度の収支予算案を定期総会に提出し、その承認を得なければならない。

2. 収支予算を変更しようとするときは、会長はその案を臨時総会に提出し、その承認を得なければならない。

●決算 【第32条】 会長は、毎会計年度の収支決算を監査の会計監査を経て、

定期総会に報告し、その承認を得なければならない。

【第33条】 会長は、会計業務を遂行するため、校友会の預金口座を開設するものとする。

【第34条】 会計担当者は、会計帳簿、備品台帳、会員名簿及びその他の帳票類を作成して保管する。また、正会員の理由を付した書面による請求があったとき、これらを閲覧させなければならない。

第6章 補則

【第35条】 会計処理の適正をはかるため、別に定める細則によりこれを行うものとする。

●支部 【第36条】 本会は、各都道府県、諸外国に支部を置くことができる。(ただし、支部の規則は別に定める)

【第37条】 本会は、会務を遂行するために、会長の統括のもとに事務局をおく。事務局長は在任期間中、理事定数外である場合でも理事とする。

●細則等の設定 【第38条】 この会則の実施について、校友会会務の執行に必要な事項は総会の議決を得て、細則を定めることができる。

【第39条】 会則、細則のいずれにも定めのない事項については、総会の決議により定める。

附則

●会則の発効 【第1条】 この会則は、平成7年11月3日から効力を発する。なお、平成6年11月1日より、平成7年11月3日の総会において会則が承認されるまでは、本会則を準用する。

●校友会の設立 【第2条】 校友会は、平成6年11月1日に設立されたものとする。

●初代役員 【第3条】 初代役員の任期は、第14条にかかわらず準備期間を含めて平成10年3月31日までとする。

●終身会費等 【第4条】 終身会費は総会においてその額が決定されるまでは第29条に規定した額とする。

事業細則

●名簿の発行 名簿の発行は次の通り行う。

1. 第1回目は、3年後(平成10年)に発行する。以後は適宜発行する。
2. 改訂した名簿は、予約制で配布する。予約を希望する会員は発行6カ月前までに実費を納入する。
3. 会費を納入した正会員は、校友会名簿1冊を無料とする。

●会報の発行 会報の発行は、年1回定期総会終了後に発行する。

●奨学金 奨学金の為の積立金が準備できた時点で、総会の承認を経て行う。

●講演会・研究会及び展示会等

*「役員の選出 第12条の細則」と「会計細則」は掲載スペースの都合で割愛いたしました。資料ご希望の折は事務局にお問い合わせ下さい。

理事・役員紹介

理事・相談役 北 陽平

昭和16年多摩帝国美術学校園案科卒業

理事・監査 堀友三郎

昭和20年多摩帝国美術学校園案科卒業

多摩美術大学客員教授／(社)日展評議員／
中村研一記念美術館常任理事／
(財)中研一記念美術財団理事／(社)光風会理事

念願の校友会が創立60周年を機に発足したことを心より喜ぶ者です。私は戦前の学生とし、上野毛校舎に学び、杉浦非水先生に直接指導をして頂いた一人ですが、なんとしてもデッサン力をつけるよう厳しく教育されました。多摩美も2万人余の卒業生を有し、社会での活躍もめざましいものがあります。卒業生、在校生、大学共々協力し、校友会設立の意義を充分高められるよう祈ります。

理事・監査 齋藤 博

昭和23年多摩造形芸術専門学校日本画科卒業

日本美術院特待／千葉県展常任理事／
NHK文化センター講師

創立60周年の節目に校友会が設立され御同慶の極みです。現在2万人の卒業生を擁する美術系の名門校になりましたが、想えば永い道程でした。その間、精魂を傾けられた歴代の先生方・職員の方々・卒業生の諸兄諸姉に心より感謝申し上げます。そして志半ばで徴兵或いは工場(日本光学・後の溝ノ口校舎)に徴用され、戦後二度と母校の門をくぐる事の出来なかった皆様にも此の慶びを届けたいと思います。

理事・会計 長江録弥

昭和23年多摩造形芸術専門学校彫刻科卒業

日展理事／日影会理事・委員長／五術院会員

校友会の設立を衷心よりお慶び申し上げます。私は永年美術系の学校には校友会は出来ないものと考えておりました。しかし、若い方達の努力によってここに校友会が出来上がりました。学んだ私には自分と仲間達との証明書のような存在です。

理事・事業部事業計画(名簿)

魚成祥一郎

昭和28年多摩美術短期大学園案科卒業

(株)乃村工藝社顧問／日本ディスプレイデザイン協会委員／千葉大学工学部非常勤講師／
女子美術短期大学非常勤講師

校友会発足おめでとう。ジャンルを越えた多くの卒業生と在校生諸君と共に一会を待たすこと、こんな喜ばしいことはない。強大に発展する情報テクノロジーの時代。大学は、つねにデザインとアートをとおした新鮮なセンセーションを風化性の軸をとおして進めていくのだから。校友会は風土性を育む道がためを。そして両者車の両輪のように限らない多摩美の未来を。

理事・事業部事業計画(奨学金)

真鍋 博

昭和29年多摩美術短期大学絵画科卒業

イラストレーター

総会での質問で、昭和32年卒業生の名簿が、成績順になっていることを知り、驚いた。油画3年、間を置いて研究科2年、非常勤講師20年なのに、準備人会で、70歳代の先輩の話をきくにつけ、知らぬこと、あまり多い。校友会で、事業計画を担当することになったので、他の美大の名簿づくりを聞くと、中退者に印を付けて卒業生と分けていた大学のあるのを知り、多摩美は、それはやるまいと思ひ、昨年9月の準備人会で、皆さんにお願ひした。校友会こそ、おたがい、気の許せる所にしたい。

理事・事業部事業計画

吉城 弘

昭和30年多摩美術短期大学絵画科卒業

洋画家／自由美術所属／多摩教育の会会長／
森の実美術学園研究所長

私は昭和30年油画科を卒業。教職に就きました。昭和56年、多摩教育の会が誕生。石田茂吉先生が会長を務めその後を受けました。当校友会の発足を待望していました。大学との健全な協調とこの組織の発展を大切に祈念。運営の一端を担います。

理事・事業部事業計画(奨学金)

東海林 隆

昭和32年多摩美術大学園案科(平面)卒業

(株)博報堂代表取締役社長

プロ野球でイチローが今年も大活躍して、多くの人々を楽しませてくれた。イチローは天才である。しかしイチローの才能の関花は一人ではできない。いろいろな人とのネットワークにおいて成功した。将棋の羽生名人もパソコンで仲間と共同研究をするという。人とのネットワークの中の創造

性が才能を極限まで引き出すことになる。校友会もお互い連携をとりあい、刺激しあい、助け合う。そんなネットワークでありたい。

副会長・事務局長 竹内成志

昭和32年多摩美術大学園案科(平面)卒業

多摩美術大学教授

第1回総会を経て、校友会が正式に発足しました。これから将来へと続く会の存在を思うとき、スタートの重みを痛感しています。今後、一人でも多くの校友の目が向けられるよう、実のある校友会に育てたいものです。会の発展を願ひ、不馴れなことながら役割を全うできるよう、努める所存です。よろしく願ひいたします。

理事・組織部(地方支部)

わたなべひろこ

昭和32年多摩美術大学園案科(染織)卒業

多摩美術大学教授

最近の学生出身地別をみますと東京近辺にかたまり出しているのに気がきます。地方には日本の伝統文化のルーツと底力があります。多摩美にも全国から広く人材が集まって欲しいと思います。近年は各地でも大学説明会を行う様になりました。大学も教育の場だけでなく社会文化にかかわる時代になりました。校友会の発足を機に大学との交流を深め全国的な人材の発掘にもご協力を頂けたらと各所で活躍の卒業生諸姉諸兄に願ひ致します。

理事・事業部事業計画(会計)

金岡岩雄

昭和33年多摩美術大学絵画科(油画)卒業

国立教育会館研修事業講師

スコットランドの荒涼とした僻地や、フランス・ペリゴール地方の山の中を一人で旅をした時、だれもないロマネスクのカテドラルや、ワインの酔いの中でいつも思ったのはほとんど上野毛にも出ることの少なかった学生だったのに、多摩美への誇りを持ちつづけていた事である。あたたかな校友会になる事を念じています。

副会長・組織部(幹事会)

稲垣行一郎

昭和34年多摩美術大学園案科(平面)卒業

広州美術大学客員教授

60歳から第二の人生が始まると言われます。多摩美術大学の創立から60年が経ち、大学は第二の新たな出発を迎えました。多摩美の創立の年に生まれ、共に生きてきた私も60歳となり、クリエイターとしても「今が出发点」と考えています。校友会の手

伝いを喜んでさせていただきます。

理事・事業部事業計画(広報)

神田昭夫

昭和34年多摩美術大学園案科(平面)卒業

グラフィックデザイナー／長岡造形大学教授

今年も長岡に滞在することが多くなり、私は何もお手伝いすることができませんでしたが、無事校友会が立ち上がり、設立にかかわられた皆さんのご努力を感謝します。校友会が、単に卒業生の消息を伝えるためのものや、思い出話に花を咲かせるためのものだけでなく、ましてや学園を形成するためのものだけではなく、校友会がこれからの若い世代につながる、美術とデザインの文化発信の核になるよう青つことを祈っています。

理事・組織部(学生会在校生)

市川保道

昭和35年多摩美術大学絵画科(日本画)卒業

多摩美術大学教授(二部事務)／創画会

創立60周年記念式典のなか、校友会は発足した。その歳月は少数精鋭の学舎で学んだ80歳代の先輩、戦前、戦後、そして60年安保、大学の校多の波乱を超えて現在はある。60周年をえ、新たに新校舎建設という大学の大きな願いを成し遂げようとしている。国際的な視野に立って自由と理想を求め、多摩美術大学のますますの発展を期待する。それもこれも、学舎を共にした卒業生、大学関係者の愛情の賜物である。校友会は、これからの大学発展の為に母体となる在校生と水紋をえがく輪の様に2万余名の卒業生へと広がり、大きな絆となることを願っている。

理事・組織部(幹事会)

山崎美喜男

昭和35年多摩美術学園写真学科卒業

(株)スタジオアルファ代表取締役／
新多摩芸術写真協会会員／日本写真家協会会員

私は多摩美術学園第五期写真学科の卒業生です。同校には友友会と言う同窓会組織が有り平成3年36期の卒業生を送りだして閉校になった現在もこの組織は3千数百名の会員を擁して存続して居ります。ジャンルは異なっても一つの目的を持って多感な一時期を同じい入れ物の中で過ごした時間は私にとっては忘れぬ事は出来ません。そして30数年が同期の卒業生に過ぎ去りました。それぞれの人生、仕事、経験、時々集まってはそれらについて語り合う、これが私にとっては友友会でした。この度冒わば多摩美術学園卒業生にとっては親元の様な多摩美術大学に校友会が誕生しました。この中に多摩芸出身者がどれだけ参加するの

かは分かりませんが、芸友会がその存続基盤を失った今、唯一同じ釜の飯を食った仲間が集まれる場所としてこの度の校友会の設立に期待します。

理事・組織部(地方支部)

大倉友光

昭和36年多摩芸術学園写真科卒業

多摩美術大学技術センター職員

60周年目にして同窓会があります校友会が難産の末、発足されましたともあれ喜ばしいことです。旧多摩芸術学園には永い歴史に培われ、3000名以上の卒業生を送り出し芸友会たる同窓会がありました。芸友会の皆様には終身会費として1万円を徴収してまいりましたが財源になります新入生が平成元年を最後になくなったしいです。ここで改めて終身会費を分納可でも3万円を納入いたしませんと議決権のある会員になれませんか誠に残念です。ともあれ、あれこれ悔やんだりしてもいたしかたないこと前向きに考え、この機会に新たな出発と思ひ芸友会々員の皆様にぜひ加入して頂き、旧多摩芸術学園のパワーを校友会にぶつけて下さい。

理事・組織部(地方支部)

翁 観二

昭和36年多摩美術大学彫刻科卒業

行動美術協会会員／宮城県芸術祭理事／

河北美術展顧問

幾つかの偶然が重り合った若者達。共通のテーマを持って、実の家族より密度の濃い時を過ごした4年間、あの仲間達も学校を離れるとそれぞれの人生に向かって歩み始めた。時には振り返ることもあるが、あまりに早い月に既に遠い過去になろうとしている。校友会の発足は、現在ある自分の原点を思い起し、人生の経過を改めて意識する貴重な機会となるものと考えています。

理事・会計・事務局

岡崎 紀

昭和36年多摩美術大学絵画科(油画)卒業

多摩美術大学教授・新制作協会会員

創立60周年を期に、校友会が多くの設立賛同者を得て発足できましたこと、設立準備にたずさわったものとして、会員の皆様に感謝するとともに大変喜んでおります。2万人余の卒業生、各方面に活躍する多数の諸兄弟をもちながら、縦横のつながりが少ないため、知己を得る機会もかぎられておりました。設立を契機に、科、学年の垣根を取り払い、会員相互の活発な交流のもと、校友会のますますの発展に微力ながらつとめたいと思います。

理事・事業部事業計画(名簿)

太田幸夫

昭和37年多摩美術大学園芸科(平面)卒業

多摩美術大学教授／サイン素材・情報センター

理事長／日本サイン学会会長／日本デザイン学

会評議員／(株)asuf代表取締役社長／ISO(国際標準

化機構・ジュネーブ)専門委員会国内委員・幹事

多摩美大が今日に至るまでの60年間、全学規模の校友会が存在しなかった事実を不思議に思っています。その一番の理由を知りたい。歴史ある私立美大の中でも今回の校友会は一番遅生れではないだろうか。これまで妊娠しなかった理由、そしてこのたび生れた理由をつまびらかにすることで、多摩美ならではの校友会に育てることができるのではないかと思う。単にうしろを懐古するだけではない、前向きのそれに、みんなの関心と期待が寄せられている。

理事・事業部事業計画(企画)

岩倉信弥

昭和39年多摩美術大学園芸科(立体)卒業

本田技研工業(株)常務取締役

お話を頂くまに、校友会設立準備のメンバーに加えて頂きました。卒業は1964年、丁度オリンピックの年、日本も私も燃えていました。それから30年、遅二無二走って来た自分を振り返っている時でした。開校60周年、はからず、その中程に居ることを知りました。先輩方、後輩諸君の丁度中間世代として、何かお役に立てるかとお引き受けしましたが、結局は忙しさにかまけて、足手まといになってしまった様です。準備委員会諸氏の御苦勞に感謝致します。素晴らしい心よりどころが出来たと喜んでます。

理事・事業部事業計画(企画)

関根伸夫

昭和41年多摩美術大学絵画科(油画)卒業

環境美術家

一生の間で知りあい友情関係を結べる人の数なんて数えているなあと最近は何となく。齢のせいなのか、世紀末という時代のせいなのかは解らないが、いずれにしても譲りあった人達を自分としては大切にしていきたいという気持ちは保持している。今ここに誕生した多摩美の校友会もそんな人間の鎖りの環であって欲しい。なつかしい同窓生、尊敬する先生、先輩、そして下級生とそっと語りあえる場であって欲しい。

理事・組織部(学生会在校生)

竹田光幸

昭和41年多摩美術大学彫刻科卒業

多摩美術大学教授／二科会会員

待望の校友会が発足したことは誠に喜ばしいことです。私が昭和41年に大学に努めてからもはや30年がたとうとしている、大学紛争や八王子開校など不十分なかでよくここまできたものだとつくづく思う。その間に多くの人々が育った。そして多摩美がまたこれから大きく変革しようとしている、それは多摩美の自由と活力の現れで理想的な飛躍と信じたい。校友会が母校の発展を願ひお互いの親睦をはかった円熟した会になることを願ってそのお手伝いが少しでも出来たらと思っています。

理事・事業部事業計画(奨学金)

五十嵐威暢

昭和43年多摩美術大学デザイン科

(グラフィック)卒業

金沢工業大学デザイン顧問／(社)日本グラフィックデザイナー協会理事／山田照明(株)総合デ

ザイン顧問／多摩美術大学客員教授／

(株)イガラシステュディオ／IGARASHI INC.

あって当然の校友会が、やっと組織され嬉しく思っています。次は校友会がどんな成果を生み出していくのか楽しみです。出来れば単なる同窓会に留まらず、会員にとってもう一度、大学とつき合えるような、大学と社会人が新しい学びの環境を生み出すような活動を実行して欲しいと思います。

事務局

中野嘉之

昭和43年多摩美術大学絵画科(日本画)卒業

多摩美術大学教授

長い間の件案であった校友会が多摩美術大学60周年と同時に設立された事は記念すべき平成7年となりました。設立されるまで多々の御苦勞があったと思います。設立された以後これからの活動が校友会発展の鍵となります。必ずしも地道に長期にわたるビジョンが必要とされます。校友会の会員一人一人がより必要とする魅力ある校友会である事を願っています。

理事・事務局長

渡辺達正

昭和45年多摩美術大学絵画科(油画)卒業

多摩美術大学助教授

多摩美術大学校友会は、昭和10年上野毛に多摩帝國美術学校が創設された当時の大先輩から、平成7年に卒業された若い世代まで2万人の会です。校友会は多摩美の集積であり、また次の時代への役割を果たす

べき交流の場でもあります。校友会が母校と卒業生のお役に立つ事が出来る様、一人でも多くの方々の、ご参加とご協力をお願いいたします。

事務局

田中康夫

昭和46年多摩美術大学絵画科(油画)卒業

多摩美術大学助教

校友会設立に向け世話人の仕事を通じ幾多の変動に見舞われた多摩美の60年の諸先輩の歴史を知ることができた。今日はインターネットの情勢に入りあらゆる点で重要なところに差しかかっている。事務局員としてこれからの生産を考える時、人間関係を固め合ったり、コミュニケーションを深めたり、また異質で多様なことに対しても寛容さを持ちさらなる発展を目指し実践したいと思う。

事務局

弥永保子

昭和46年多摩美術大学デザイン科(染織)卒業

多摩美術大学講師

今は情報化時代といわれていますが、人との繋がりには、いまひとつ思われます。

私は幸いにも多摩美術大学を卒業し、染織デザイン科研究室に所属する事により卒業生と接する機会に恵まれてきました。

これからは卒業生約2万名もいらっしゃる中で、校友会に一人一人の声が集まり、もっと大きな輪に広がっていくような、そして又お互い新しいエネルギーを燃やすきっかけとなるような存在であればと思っています。

理事・事業部事業計画(広報)

海老塚耕一

昭和51年多摩美術大学建築科卒業

多摩美術大学助教授

ちょっとした繋がりやを社会の中で垣間見たときに、いつもと異なったやさしい世界が関係の背後に姿を現すといった、そんな、楽しく優しい集まりがあったら素敵だなとつぶね考えておりました。しかもそこでは、柔らかな、そして振幅を持った形で多種多様な出来事がゆっくりと確実にさまざま人の手で生まれていく—そんな夢を実現する時がきたように思えます。それは社会では実現することのできない理想の会でもあるのでしょうか。さらに自由なシステムで動作する会をつくらなければならないのでしょうか。校友会のお手伝いをするに当たってこんなことを考えました。

理事・組織部(幹事会)

田代孝一郎

昭和51年多摩美術大学建築科卒業

(株)アートファニチャー役員

無事ここに、校友会が設立され、準備人のひとりとして、喜びに耐えません。これを期に、世代や科を越えて、多くの校友の繋がりか、強く大きなものとなり、新たな力と、多くの可能性が生まれる事を、期待すると共に、この校友会を中心とする、新たな活動が、校友の持つ高い創造性を生かし、多くの知恵と力を集め、芸術文化の発展と、多摩美術大学の発展に、必ずや大きく寄与されるものと、確信しております。

(ここまでの理事・役員紹介は卒業年度順と

しています)

昭和42年多摩美術大学デザイン科(立体)

卒業の高橋士郎氏は理事を辞任されました。

顧問

内藤頼博

多摩美術大学名誉理事長

顧問

末松正樹

多摩美術大学名誉教授

昨年は戦後50年、歴史の大きな節目だった。この年、多摩美術大学は創立60周年を祝い、それと同時に校友会の初めての懇親会が開かれた。戦前再建の専門学校、短大卒業の人たちも全国から集まって、私には、大学発展の長い歴史がよみがえる思いがした。多摩美には校友会が欠けていた。遅すぎたとも言えるが、これで大学の形が整ったと、私は心から嬉しく思った。

校友会地方支部

支部の結成は、各都道府県単位に、在住する卒業生全員に呼び掛けたうえ、多摩美術大学校友会会則の目的を遵守し、それぞれの地域の芸術文化の発展に寄与する支部会則を設ける。

支部長は多摩美術大学校友会支部の代表として校友会運営に参与する。

諸外国についても同じとする。

北海道支部長

栗谷川悠一

長野支部長

浅野盛男

照電プラスチック工業(株)代表取締役/

照電工業(株)代表取締役

長野県は今、1998年の長野冬季オリンピックに向けて競技施設や道路建設など、どこもかしこも力強く建設の音が響いています。県内にはおよそ150名の同窓生が在住していますが、未だに連絡が取れずにいる方々がいる一方、県外から長野県へ移住している同窓生が予想以上に多いものと思われまます。私達は平成6年11月に長野県校友会を「多摩美信濃会」として発足しました。今後は会員の活動ジャンルを越えて情報などを交わし合い、親しく交流して行きたいと考えています。

新潟支部長

畠山恒雄

福岡支部長

藤丸國彦

洋画家

多摩美術大学創立60周年を迎え、卒業生が早くから望んでいた校友会が、創立60周年の節目に結成されたことは、まことに喜びにたえません。創立以来、長い歴史の中で幾多の変遷を経て今日の美術界に着実に名声を上げあらゆる分野に卒業生の活躍をみることが出来ます。今後、校友会が会員相互の友情と芸術文化の向上に寄与することにより、母校との結びつきを深くし、会員の交流の場として一層の充実と母校の発展を祈りたいと思っております。

佐賀支部長

青木久重

愛知支部長

内藤圭介

静岡支部長

鈴木健司

広島事務局

中村孝義

社団法人日本グラフィックデザイナー協会会員/CG研究会(コミュニケーショングループ)事務局/広島クラフトデザイン協会会員/広島YMCA国際ビジネス専門学校非常勤講師/有限会社バラガンホームページ制作マネージャー&講師

多摩美術大学校友会の発足おめでとうございます。広島には、既に広島多摩美会という独自の校友会組織があり、過去2回作品展や懇親会などいろいろ実行しています。多摩美卒の人間は群れたがらないといわれていますが、大先輩からフレッシュな後輩まで幅広くなごやかに活動しています。

多摩美術大学校友会が東京中心の校友会でなく、また地方在住の卒業生に不担のかわらない運営をお願いし、我々が誇れる校友会に育つよう期待しています。

※平成8年2月24日、静岡県立美術館講堂において、静岡多摩美会設立総会が開催されました。

幹事

山名 有世 (S27因)	橋本 京子 (S43T)	河内 成幸 (S48OH)	林 智明 (S54映画)	仲田 智 (S62O)
文珠 義博 (S33因平)	植垣 樺 (S43T)	丸山 剛 (S49G)	駒形 克明 (S54D)	荻沼 良男 (S63A)
寺内 定夫 (S33因平)	平尾 健二 (S43P)	前田 耕成 (S48S)	武正 秀治 (S55P)	酒井 由紀 (S63R)
辻 日出子 (S33脚本)	中野 高之 (S43J)	平井 達郎 (S49O)	澤田 薫 (S55A)	大久保元博 (H1G)
鶴見 雅夫 (S34O)	松下 宣彦 (S44J)	大島 礼治 (S46P)	岡田 佳之 (S55O)	井出 幸夫 (H1A)
中森 隆三 (S34O)	望月 秀峻 (S44G)	須永 剛司 (S49P)	和田 達也 (S56P)	大場 麻美 (H2T)
神谷 清和 (S35O)	庄山 晃 (S44演劇)	安部 千隆 (S50S)	須藤 美保 (S56O)	渡邊 淳 (H2O)
山下 勇三 (S35因平)	渡辺 達正 (S45OH)	武藤 豊子 (S50T)	鈴木 雄 (S54OH)	塩川 岳 (H3O)
尾上 隆 (S37因平)	大山 樹 (S45T)	川辺 美佳 (S50O陶)	木村 雅典 (S57T)	赤澤 裕二 (H3P)
山中玄三郎 (S38因I)	川瀬 和子 (S45T)	田原 諭 (S51A)	菊地 武彦 (S57O)	加藤 恵 (H4J)
小畑 廣永 (S38因P)	羽藤 慎郎 (S45O)	大迫 修三 (S51G)	加納 豊美 (S57芸美)	武藤 博美 (H4O)
前田 正道 (S38O)	榎本 健 (S45写真)	平岡 恵子 (S51J)	小泉 雅子 (S58G)	園枝恵理子 (H5二テ)
伊藤 亨 (S39J)	河原 和 (S45芸美)	石井 茂 (S51写真)	井上 雅之 (S58O陶)	石原 誠 (H6OH)
門田 博 (S39O)	星野 章 (S45映画)	上野 淳子 (S52O)	小暮満寿雄 (S59O)	寶藤 信 (H6二給)
石井 厚生 (S39S)	植村 博 (S46S)	小山 壽久 (S52G)	鶴沢 直美 (S59P)	広橋 正 (H6G)
橋 操 (S40O)	鈴木 保子 (S46T)	水嶋 正吾 (S53O)	高山 浩 (S60S)	宗 あみ子 (H7S)
森島 藍 (S41因平)	奈良間 茂 (S46G)	田中 泉 (S53G)	武田 州左 (S60J)	山崎 和雄 (H7A)
田口 敦子 (S42G)	米谷 清和 (S46J)	和田 弥生 (S53T)	平末 広 (S60R)	室伏 敦子 (H7二玉)
清水 行雄 (S42G)	田中 康夫 (S46O)	秋山 孝 (S54G)	池田 真弓 (S61J)	
高橋 士郎 (S42P)	吉橋 信良 (S47G)	川名 靖彦 (S54S)	野村 重存 (S61O)	
梶田 隆一 (S42J)	桂川 幸助 (S48T)	吹田 千明 (S54O)	太田 賢二 (S62T)	